

## 公益社団法人日本地震学会平成25年度第4回理事会議事録

1. 日 時 平成25年10月1日(火) 15:00~18:45
2. 場 所 東京大学地震研究所 事務会議室A
3. 理事数 15名
4. 出席者 理事12名
  - ・理事：加藤照之，井出 哲，岡元太郎，香川敬生，加藤尚之，小泉尚嗣，関口渉次，  
武田哲也，西澤あずさ，堀川晴央，松原 誠，モリジェームズジロウ
  - ・事務局：中西のぶ江，岡野美紀子

### 5. 審議事項

議長加藤照之は、本日の理事会の理事出席者が12名であり定足数を満たしているため、理事会が成立することを宣言した。続いて、以下の議案について、逐次審議に入った。

#### 第1号議案 地層処分WGへの委員推薦について

資源エネルギー庁から依頼があった地層処分WGへの委員推薦について議長よりこれまでの議論および経緯について説明が行われ、資源エネルギー庁への回答案が提示された。回答案について審議を行った結果、多少の文言の変更を含め提示された回答案で回答することを全会一致で承認した。また、この委員推薦および回答までの経緯について会員周知を行う方法について検討し、秋季大会会場での説明会の開催のほか、学会ホームページの会員専用ページに依頼文書、回答文書およびQ&Aを掲載することとした。

#### 第2号議案 選挙管理委員会について

次期代議員選挙(任期：2014年4月1日~2016年3月31日)の選挙管理委員会の設置および委員候補者について議長より説明が行われた。審議した結果、原案通り全会一致で承認した。

#### 第3号議案

議長から、入会申請者の承認に関する件について諮られ、審議の結果、正会員に申し込みのあった36名(内学生25名)の入会を全会一致で承認した。

#### 第4号議案 後援承認について

以下1件の資料が回覧され、後援名義の使用を許可した。

後援：第18回「震災対策技術展」横浜ー自然災害対策技術展ー

### 6. 報告事項

以下の報告があった。

1. 正会員 1 名（内学生 0 名）の退会届が提出された。
2. 議長より、ミルン展について国立科学博物館における展示期間が終了したこと、9 月 6 日のミルン展への両陛下公式訪問の件について報告された。また、ミルン関連の展示については 10 月 7～9 日に開催する秋季大会の展示会場においてトワイクロス氏作成の DVD を上演するほか、国立科学博物館でのミルン展のパネルを上映ブースにおいて展示することが報告された。
3. 香川理事より、10 月 7 日に開催される特別シンポジウムについて、趣旨やプログラム進行についての説明が行われた。また、シンポジウム開催後に実行委員会により報告書を作成予定であることが報告された。
4. 議長より、8 月 27 日に開催された関東地震 90 周年記念シンポジウムについて、参加人数（290 名）や各講師の講演およびパネルディスカッションの様子について報告された。また、閉会の挨拶のなかで日本地震工学会会長より、今後もこのような共同開催のシンポジウムを引き続き開催していきたい旨が述べられたことが併せて報告された。
5. 議長より、科学技術・学術審議会測地学分科会からの『災害軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について（中間まとめ）』への会長意見照会について説明が行われた。加藤会長は、昨年の同分科会からの依頼と同じく、まず会員へのパブリックコメント募集の周知を行い、その後、中間まとめへの代議員からの参考意見を求めた、との経過報告を行った。続いて、代議員からの参考意見を基に会長がまとめた意見案が提示された。理事から出された意見等を入れて若干の修正を行い、10 月 3 日までに提出することとした。
6. 小泉理事より 9 月 13 日に開催された地震予知検討委員会において「地震の予知・予測の研究についての過去の議論をまとめる」について議論を行ったことが報告された。また、地震の予知・予測の研究の整理の進行状況について配布資料に基づき説明が行われた。
7. 岡元理事より、報告資料に基づき、学校教育委員会が主体となって行っている教員免許状更新講習の実施状況について報告が行われた。昨年の受講人数に比較して今年度の受講者数が減少していることや、地方での開催する講習の受講者が少ない事などの問題点を確認し、まずは同委員会において問題点についての検討を行う事を確認した。
8. 堀川理事より、配布資料に基づき E P S 誌の刊行体制についての現状報告および今後の予定について説明が行われた。

9. 西澤理事より、配布資料に基づき 10 月 7 日に開催される男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催および第 3 回大規模アンケートの報告書の公開に関する情報提供が行われた。また、8 月 9 日に開催された「女子中高生夏の学校 2013」（国立女性教育会館主催）の報告紹介が行われた。

10. 松原理事より、地震暦およびポスターの在庫状況について報告が行われた。報告に基づき、刊行から経過年数が経っており頒布に適さないものについては廃棄することとした。また、学会ホームページにおける会員専用ページの運用準備状況について報告が行われた。

11. 西澤理事より、田所理事からの報告資料に基づき災害調査委員会の他学会との連携に関して、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会についての報告が行われた。日本学術会議および東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会が主催するシンポジウム「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」の準備状況およびプログラムについて説明が行われ、また、シンポジウムの運営協力の要請がきていることが報告された。加藤会長から理事に対して、シンポジウムに極力出席してほしいとの要望が述べられた。

12. 香川理事より、共催事業である鳥取大地震 70 年フォーラムの終了報告、第 13 回強震動講習会に関する準備状況および 10 月 6 日に開催される強震動委員会第 24 回研究会の開催について説明があった。また、共催事業である第 14 回日本地震工学シンポジウムの特別セッション提案に関し、強震動委員会が担当する件が提案され、理事会において承諾された。

13. 井出理事より、平成 25 年度（後期）海外渡航旅費助成金公募結果について、審査の結果、申請者 11 名のうち 8 名が採択されたことが報告された。

14. 関口理事より、地震の編集状況について、現在編集集中の論文が 11 編であり、その内今年度の投稿は 10 編であること、また、66 巻 3 号の掲載予定論文が 2 編受理されていることなどが報告された。

#### 7. その他（意見交換）

以下の 8 件の意見交換があった。

1. 雑誌「地震」の出版方法について意見交換が行われた。関口理事より、武田理事との地震と学会情報誌との統合に関する検討経過について報告が行われた。10 月 9 日の理事会説明会に向けて、おおよその統合方針については学会情報誌にあわせ年 6 回の刊行とし、会

員へ冊子体を配布すること、雑誌名は「地震」を引き継ぐことなどとし、会員への提案資料を作成することとした。

2. 議長より、「地震予知検討委員会」の見直しに関する理事会の意見分布と意見に基づく見直し案が提示された。提示された資料に基づき意見交換が行われ、多少の変更を含め、10月9日の理事会説明会の資料とすることが承諾された。また、会長より提案された見直し案の付属資料である地震予知検討委員会の改変に関わる組織図については、関連委員会からの意見も聞きながら提示された組織図が学会全体の組織図の中の一部としてわかるようにした方が良く、まずは「地震学を社会に伝えるWG」で議論すべきである、などの意見が出され、この資料については今回の理事会説明会では提示しないこととした。

3. 議長より IASPEI 委員会の佐竹委員長から 2017IASPEI-IAG joint assembly について打診があった旨が説明された。意見を交換した結果、この件の対応は IASPEI 委員会に依頼することとし、日本測地学会と共同でタスクチームを作って対応してほしいとの要望を会長より同委員会に伝えることとした。

4. 議長より、今後も「地層処分」に関する対応が求められると予想されることから、学会の対応を検討しておいた方が良くのではとの提案があり意見を交換した。第1号議案において資源エネルギー庁へ回答した件に関しても、これで終わりというわけではないので、今後の対応方針を検討するために臨時委員会のような検討・対応窓口を設けてはどうかとの意見がだされ、引き続き検討することとした。

5. 議長より、第3回理事会において協力を承認した初回の特別シンポジウムに際して実施されたアンケートを再び実施することに関する会員から意見があったとの報告が行われた。意見交換の結果、理事会として意見があった会員に対して今回のアンケート協力に関する経緯等を回答することとした。

6. 堀川理事より、EPS誌 Frontier Letter への著者推薦について説明が行われ、推薦方法について意見交換が行われた。意見交換の結果、各理事が推薦したい候補者を見つけて打診し、了解が得られたら会長に伝えることとした。

7. Mori 理事より米国地震学会講演会（2014年4月30日～5月；於アンカレッジ）における共通セッションについて経緯説明が行われ、セッション提案について意見交換が行われた。意見交換の結果、Mori 理事がコンビーナとして共通セッション「Great Earthquakes and Slip to the Trench」を提案することとした。なお、共通セッション提案だけでなく参加者の渡航旅費助成や、日本での秋季大会における共通セッションの開催など来年度の事業

計画に向けて検討をはじめることとした。

8. 議長より、秋季大会における特別シンポジウム開催の日程について八木理事より議論してほしいとの依頼があったことが報告され意見交換を行った。現在、LOCを打診している2016年大会の開催候補地の会員から、近年秋季大会時に開催される特別シンポジウムについて、従来の3日間の学術講演会の日程に組み込むのではなく、別途、1日の日程をとってもよいのではないかとの意見が寄せられたとのことである。代議員にアンケートを取ってはどうかとの意見がだされ、それを理事会の意見として大会・企画委員会に回答することとした。